

**長岡市・和島村合併協議会  
第1回新市建設計画策定小委員会**

**議 事 録**

# 第1回新市建設計画策定小委員会会議録

## 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成16年12月22日(水) 午後4時30分
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

## 2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸  
佐々木貞夫 池田 彌

以上 6名

(欠席委員の氏名)

阿部 誠一

以上 1名

## 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡市・和島村合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

委員の皆様には、足元の悪い中お集まりいただきましてまことにありがとうございます。また、本小委員会の委員をお引き受けいただきまして重ねて御礼申し上げます。

それでは、ただいまより長岡市・和島村合併協議会第1回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

本日の小委員会は、阿部委員が欠席されておりますが、小委員会規程により、会議が成立していることをご報告いたします。

また、合併協議会と同様に公開によって行わせていただきますので、ご発言の際にはマイクをお使いくださるようお願いいたします。

それでは、お手元の資料について確認をいただきたいと思います。資料は5種類ございます。資料1から資料5まで、資料の方はよろしいでしょうか。

続きまして、僭越ではございますが、私から委員の皆様をご紹介させていただきます。資料1をごらんください。恐れ入りますが、お名前を読み上げられた方はその場にてご起立くださるようお願い申し上げます。

長岡市の委員から紹介いたします。

二澤長岡市助役でございます。

大地長岡市議会市町村合併調査研究委員会委員長でございます。

続いて、和島村の委員をご紹介します。

佐々木和島村助役でございます。

池田和島村議会市町村合併調査特別委員会委員長でございます。

続いて、学識経験者の委員を紹介いたします。

豊口長岡造形大学理事長様でございます。

そして、最後になりますが、鯉江長岡大学助教授様でございます。

ありがとうございました。

続きまして、次第の3番目でございますが、委員長、副委員長の選出に移らせていただきます。

長岡市・和島村合併協議会小委員会規程第4条に基づきまして、正副委員長については委員の互選により1名ずつ選出することとなっております。

まず、委員長の選任からお願いしたいと思いますが、どなたかご意見などございませんでしょうか。

二澤委員。

委員（二澤和夫）

前の6市町村の時も委員長をしていただきました豊口先生からは是非ご難儀をおかけいたすことにな

るかと思いますが、引き受けていただければと提案いたします。

事務局（北谷）

それでは、豊口委員に委員長をお願いするということによろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

事務局（北谷）

ありがとうございました。

皆様のご賛同をいただきましたので、委員長には豊口委員さんをお願いしたいと思います。

続いて、副委員長についてですが、どなたかご意見などございませんでしょうか。

大地委員。

委員（大地正幸）

副委員長には、鯉江先生を推薦します。

事務局（北谷）

ただいま鯉江委員さんを副委員長にというご意見ありましたが、鯉江委員に副委員長をお願いするということによろしいですか。

「異議なし」という声あり

事務局（北谷）

ありがとうございました。

それでは、副委員長には鯉江委員をお願いいたします。

正副委員長が決まりましたので、お手数ですが、お二人の席を移動していただいて正面におかけくださいようお願いいたします。

正副委員長席に着く

事務局（北谷）

それでは、正副委員長よりそれぞれ一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。

豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

また、たいへんな大役を仰せ付けられました。新しい時代を迎えるためのたいへんな出来事ですが、ご協力をいただき、素晴らしい新しいまちづくりをしていきたいと思っています。

事務局（北谷）

鯉江副委員長からお願いいたします。

委員長（鯉江康正）

副委員長を仰せ付けられました鯉江です。よろしく申し上げます。特に豊口先生には、いろいろお世話になっていますが、しっかり補佐しながらやっていきたいと考えています。

事務局（北谷）

ありがとうございました。

それでは、今後の進行については豊口委員長にお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、早速でございますけれども、議事に従って進めてまいりたいと思います。委員長ということで、私これからあと司会を担当させていただきますけれども、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、次第の4番目になりますけれども、長岡市・和島村新市建設計画策定にあたってにつきまして事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局（高橋）

協議会事務局の高橋でございます。よろしくお願いいたします。恐縮でございますが、座って説明いたしますので、お願いをいたします。

お手元にお配りしてございます資料のうちの資料2をお出してください。右肩に資料2と振ってあるものでございます。新市建設計画策定小委員会の役割についてご説明をいたします。

1番でございます。小委員会の位置づけでございますが、これは先般行われました協議会におきまして説明させていただいた内容と若干ダブる部分がございますが、よろしくお願いいたします。小委員会は、新市全体のまちづくりの視点から建設計画にかかわる検討、審議を行い、計画案を策定する機関として位置づけしております。したがって、協議会本体の方から建設計画の部分について小委員会で案をまとめてほしいと付託されておりますので、この役割を小委員会が担う。そして、計画案を策定し、協議会の方に提案をすると、こういうことでございます。

2番、小委員会の内容でございます。基本的にはそれぞれの市村、それから分科会等で十分に検討を経て、事務局で整理をして、建設計画の内容を小委員会の方にご提案したいというふうに考えております。そして、その内容について小委員会の方でご審議をいただき、計画案としてまとめていただきたいと考えているものでございます。なお、その際には先般の協議会でも若干質疑の中で話が出ておりましたが、新市全体の視点という考え方で建設計画をつくりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。したがって、アイデア的なものであるとか、創造的な意見も出していただきたいというふうに考えているものでございます。

そして、これからご審議、ご検討いただくポイントでございますが、事業を検討していく段階と、それから施策の体系を整理していく段階とあるわけですが、事業検討段階におきましては、単に我々の方が提出をしました内容の質疑をしていただくということではなくて、合併後10年間のまちづくりの計画でございますので、新市全体で行っていくべき施策や事業、そういうものに対してのアイデア、それから創造的な意見も含めたご議論をしていただきたいというふうに考えております。それから、施策体系の方の整理の段階でございますが、これにつきましても全体的な内容審議を主体としてご議論をいただければと考えております。そして、計画案としてまとめ、協議会に提案をしたいというふうに考えております。

その下に議論のポイントということで整理してございますが、重複するようで恐縮でございますが、あくまでも新市将来構想、長岡地域で決められております構想というのがございまして、それを実現するためにどのような施策を考えていくかというのがポイントと考えております。それから、もう一つあくまでも新市全体の中の視点を踏まえてどのような施策、事業を考えているか、これがポイントというふうに考えております。

4番、検討、審議のテーマと開催のタイミングということでございまして、スケジュール的な部分も含めてご説明をいたします。まず、第1回でございまして、本日でございまして。本日の議題にありますとおり小委員会の役割、それから策定の考え方と手法についてをご議論いただく予定でございます。それから、第2回目でございますが、今の予定では年を明けまして1月の13日ごろに開催できればということで準備を進めたいというふうに考えております。ここでは和島地域の夢、要するに将来構想的な和島地域のものを検討したいと思っておりますし、それに伴ってそれを実現するための施策についてもここで検討したいというふうに考えております。それから、3回目でございますが、協議会の本体の方が1月の末に予定されておりますので、その直前に小委員会を開催したいというふうに思っております。ここでは、建設計画書の素案という形でまとめたいというふうに考えてございまして、ここでまとめたものを協議会の方に提案をし、ご審議をいただき、県の方の事前協議に向かいたいというふうに考えているものでございます。それから、第4回目でございますが、これは3月開催というふうに考えております。県の事前協議が終わった段階で県の方から意見なり、ある程度の修正を求められることが想定されますので、それらを含めて第4回目の小委員会で最終版に近いものを整理していきたいと考えているものでございます。

それから、1枚おめくりいただきまして次のページですが、長岡市・和島村合併協議会小委員会規程、これにつきましては先般の協議会でご承認いただいているものを参考としてつけているものでございまして、2枚おめくりいただきまして4ページ、小委員会設置要綱につきましても協議会でご説明した内容と同様のものを参考としておつけしておりますので、説明は割愛をいたします。

(1) 番の小委員会の役割については以上でございます。

事務局(竹見)

それでは、続きまして(2)の新市建設計画策定の考え方と手法についてご説明いたします。事務局の竹見と申します。失礼ながら、座ってご説明いたします。

まず、資料3をごらんください。こちら新市建設計画の策定方針ということで、第1回の協議会で大きな方針としてご承認をいただきました。本日は、こちらの方針に沿いまして、少し詳しい形でご説明をいたします。皆様今日お持ちの将来構想、それから建設計画、こちらの二つでご説明をいたします。ただ、時間も限られておりますので、ポイントの方だけご説明させていただきます。

2番の計画策定の基本方針ということで、(1)として新市建設計画策定に当たっては、「長岡地域新市将来構想」及び「長岡地域新市建設計画」を基本とすると書いてございます。私どもは新市将来構

想、それから建設計画がセットであるということで考えております。

まず、新市建設計画、緑色の表紙でございますけれども、こちらの5ページをごらんください。5ページの上の方に、建設計画とは新市の地域らしさ価値を高めていく計画ですと書いてございます。真ん中ほどにちょっと太字で1番から3番まで書いてございます。こちらは、建設計画の根本的な考え方を示しております。まず、一つが構成市町村が新市において共存共栄を図りながら一体的な活動をするための計画であると。それから、二つ目が新市将来構想を実現する、いわゆる新市の地域らしさ価値を高めるための具体的な事業計画であるということ。それから、三つ目が住民と行政が協働で実施するまちづくりの活動計画であると、いわゆる行政だけの計画ではないと、住民と行政が一体となって高めていくまちづくりの活動計画だということをうたっています。

少しページ飛びますけれども、81ページをごらんください。こちらが新市将来構想、それから建設計画のつながりをイメージであらわしております。まず、一貫してこちらの方にうたっておりますのが、いわゆる原点は市民の声、それから思いであると。それから、どういう価値を持った地域なのかということを考えていきますと、地域の強み、いわゆる地域資源というものが原点にあるということで、一番上に赤く囲ってございます。それから、下にそれから導き出されたものが四つの新市地域らしさ価値、いわゆる独創企業が生まれ育つ都市以下四つの新市に向けて共有していく価値観を高めていくと、そういった形でまちづくりの基本方針を固めております。それから、新市統合ビジョンという形で右の方に、人は財、いきいき都市・新ながおかということで、こちらは長岡地域の合併協議会の方でまちづくりの基本方針として決めております。それから、その下に地域別整備活動方針というのがございます。これは四つの地域らしさ価値を高めるために、和島さんを含めますと七つの各地域になりますけれども、七つの地域がいろんな役割を持って、どういう役割を担っていく地域なのか、あるいはどういう地域になりたいのかということ活動を活動方針としていくものです。6市町村はできておりますので、和島村さんがこれからこちらの小委員会の方で活動方針をつくっていくということになります。それから、下の方に向かいまして、今度地域別活動方針、あるいは重点実現項目を実現していくために、どういう根幹事業が新市として必要かということが建設計画の登載事業という形でこれからご検討いただくことになります。それから、新潟県事業も含めてご検討いただくような形になると考えます。それから、こちらの左の方に市民はオーナーという形で、上の方にありますけれども、行政だけの目標ではなくて、市民と行政が協力して、協働でまちづくりを行っていくと、そういったことが根底に考えられております。

それから、もう一回5ページの方にお戻りください。下の方に四角で囲みまして、現6市町村の既存計画との関連が書いてございます。既存計画は新市建設計画の重要な素材として位置づけ、事業出し、あるいは施策の素材と考えていただきたいと思います。それから、下の新市の総合計画との関連についてでございますけれども、新市建設計画は根幹となる事業を明確にしていくということで、詳細な事業、全分野に及ぶ施策や事業を掲載するものではないということの中では、細かい事業につきましては新市になってつくる総合計画で確定していくということでお考えいただきたいと思います。

続きまして、資料3の(2)の方をご説明いたします。(2)の方につきましては、建設計画書の7ページごらんいただきたいと思いますが、今現在は6市町村の形で資料関係がまとまっております。本日の資料の5をごらんになっていただきたいのですけれども、まだ第1章の途中でまとめておりますけれども、例えば資料5の1ページ目は和島村さんをこちらに追記しまして、アクセス時間とか、それから例えば3ページをごらんになっていただきますと、各人口動態の見通しという形で、6市町村のグラフがありますが、その中に一番下から山古志村さんの上の方に和島村と書いてございます。こういう形で、データ関係については追記していくというような形になります。

それから、ページが飛びますけれども、こちらの緑色の表紙の建設計画書の45ページをごらんになってください。第4章からは具体的な事業が掲載されるわけなのですが、今現在6市町村で実施していく事業ということで掲載しております。例えば45ページの戦略的ビジョンをこうやって掲げられておりますけれども、こちらの事業名や重点実現項目等は、これは変更しないということです。これは、(2)に書いてございますように長岡地域合併協議会で策定した内容は変更しないと。ただ、長岡市と和島村との合併に必要な内容を追記するということです、これからのご検討の中で追記する事業名があればこの中に追記していくと、欄をふやしていくというようなイメージです。

それから、50ページをごらんください。50ページ以降リーディングプロジェクトを掲載するのですが、太字が事業名で、この下が達成目標的なものを書いてございますけれども、こういったものは変更しません。ただ、矢印の部分で和島村と長岡市で取り組んでいくべき、そういったリーディングプロジェクトが新たに出れば矢印を追加して、その下に事業の内容を書いていくとか、そういう形でまとめるような形になります。

以下、70ページから新潟県事業になっておりますけれども、こちらにもそういった内容で追記する事業があれば、こちらの方に追記していくというふうな形になります。

続きまして、4番の長岡市と和島村との合併において追記する主な内容についてご説明いたします。資料3の4の(1)に新市建設の基本方針ということで和島地域の夢、地域別整備活動方針及び活動展開ということで策定するわけですが、将来構想の51ページをごらんください。あっちこっち資料飛んで申しわけないんですけども、51ページ、52ページは6市町村で地域の夢を検討してきた手法と経過が書いてございます。検討全体の流れとしては、51ページの上の方にございます。活用すべき地域資源、あるいは強み、それを活用して地域らしさ価値を高める方向性などを検討した中で地域別活動方針、それから具体的な取り組み内容というものを検討していくことになります。

それから、52ページが実際にこれ6市町村で自治体職員のワークショップを行った内容なんですけれども、短い時間ですけれども、こういった内容で検討していくような形になります。

それから、53ページ以降が各地域の夢という形で、各市町村ごとに地域別活動方針を取りまとめております。こういったことで、最終的には整理された内容をお示しするような形で取りまとめるような形になります。それぞれ各地域の夢がこちらの将来構想では86ページまで続いていますけれども、こういっ

た形で最後取りまとめていくという形になります。

それから、もう一度建設計画の方にお戻りいただきまして、その内容が建設計画書の地域の夢の部分がございまして、それが建設計画書では29ページから始まっていて、34ページの小国地域で閉じられていますけれども、小国地域の次に和島地域という形で地域の夢が掲載されます。

それから、35ページ、36ページですけれども、それぞれの地域らしさ価値ごとの活動方針をまとめておりますけれども、今6市町村ありますが、ここに和島村の活動方針がそれぞれ追記されるというような形です。

続きまして、(2)の新市建設の施策ということで、長岡市と和島村との新市建設に係る新市による根幹事業と新潟県の根幹事業を追加することになります。41ページをごらんください。こちら建設計画の事業区分の設定という形でまとめてあります。これどういう体系で、事業や施策を考えたときに、これを体系化していくかということでもまとめてあります。左に書いてありますように新市の根幹事業ということで地域らしさ価値を高めるとともに、新市の期待感、達成感、安心感、一体感を醸成する事業であるということで、大きくこれ三つの柱をつくっております。最初に、市民はオーナーということで、市民がオーナーとしていろんな活動をしていくために、市民の気持ちが非常に重要であるということで、いわゆる人々の期待感、達成感、それから安心感、一体感を高めていく事業区分としてまとめてあります。一つが戦略的事業、そして二つ目が生活基盤整備事業、それから3番目が合併に伴い、必要となる事業ということで、特に戦略的事業の中でリーディングプロジェクトとして書いてありますけれども、リーディングプロジェクトは通常ビッグプロジェクト的なものとしてうたわれておりますけれども、こちらでは合併後3年程度までに着手、あるいは実現でき、そして新市民の達成感が得られる、そういった事業として整理していくということになります。お金がなくても、少しずつでも達成感を高めていくと、そういった事業区分です。それから、新市建設の根幹になる新潟県事業ということは今後整理して検討をしていくことになります。

それから、資料3の(3)の財政計画でございますけれども、新市建設のための歳入歳出の計画ということで、建設計画では75ページ、こちらには財政計画という形で前提条件、あるいは歳入歳出、そして財政計画としては76ページでありますけれども、17年度から26年度までの10年間の合計をまとめていくという形になります。

それから、資料3の5番の策定手順ですけれども、建設計画でいきますと、37ページをごらんください。こちら実際に6市町村で建設計画を策定するときのプロセスをまとめてあります。和島村との協議の中でもいわゆる和島村、あるいは長岡市の職員、それから分野別分科会、それから企画総計、合併担当ワーキング、それぞれのメンバーがこちらの中に参画してよりよいものをつくり上げていくと。そして、つくり上げたものをこちらの新市建設計画策定小委員会にお諮りして、素案として合併協議会にお諮りし、新潟県との協議に向かっていくというような形で取りまとめていきます。

あと、6番の構成につきましては、こちらの表紙をおめくりいただきますと、目次がございましてけれ

ども、こういった内容で取りまとめていくというふうな形になります。

説明は以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ただいま事務局の方から資料2及び資料3に基づきまして説明をしていただきました。この内容につきまして何かご意見、ご質問等がありましたらお願いします。いかがでございますか。

委員（池田）

非常に良く6市町村のものができているわけですが、この中に具体的なものが入っていければと思います。よろしく願いいたします。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

この間の15日に開催されました協議会におきましても、建設計画の策定ということについては長岡地域新市建設計画を基本とするという、こういうことが確認されておりますので、今事務局が説明をしておられましたけども、こういった基本的な方針で今後進めていくということになると思います。

それでは、次に移らせていただきます。新市建設計画についてとありますので、まず事務局の方から説明をひとつお願いいたします。

事務局（竹見）

これから新市建設計画のいろんなご検討をいただくわけなんですけども、まずその前に和島村さんの現況、あるいは歴史的な経緯などを皆さんから知っていただくという機会が必要ではないかと考えまして、本日と和島村のご担当の方からご説明をいただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

和島村（早川）

和島村の総務課長、早川と申します。よろしくお願いします。お手元に資料ナンバー4お配りしておりますが、ここに概略説明をさせていただいております。これに多少肉づけをしたような形で若干の時間と和島村の現況をご紹介いたしまして、ご理解いただきたいということをお願いを申し上げます。

和島村は、三島郡の北部に位置しておりまして、総面積は31.86平方キロメートルでございます。南北に広い海岸線を有します新潟県のほぼ中央部にございまして、日本海方面へは比較的平野部が広がっております。内陸部へはなだらかな三島丘陵を越えて長岡地域へとアクセスが広がっております。気候は比較的温暖でございまして、冬場の降雪は平年でも大体20センチ程度でございます。多くても50センチくらいということでございます。村の主要産業におきましては農業でございます。新潟県内でも早場米の産地として良質の米を生産しております。そのほかの産業といたしましては、良質の米と良質の水が醸し出します日本酒の造り酒屋が2軒ございまして、折からのブームに乗って良質な日本酒を供給してきております。村の中央を2級河川、郷本川が流れておりまして、JR越後線と国道116号が村を縦断

するように並行して走っております。平成15年12月には、村民が待望しておりました国道116号和島バイパスが全線開通いたしまして、全国でも有数な小学校の通学路での交通の危険性がこれで解消をされております。その和島バイパス開通と時を同じくいたしまして、村内に残されておりました古民家を移築いたしまして国土交通省と一体型の道の駅を整備いたしまして、和島村として初めての試みでございますNPO法人、和島夢来考房が発足いたしました。この道の駅の指定管理者として積極的な活動を展開しております。

和島村の歴史は非常に古く、旧石器時代、今から1万年以上も前から人が生活していたと言われております。縄文、弥生時代の土器や石斧、鏃等が各地で出土しております。平成2年に国道116号和島バイパスの法線上にありました八幡林遺跡の調査におきまして、沼垂城の記述のある木簡が出土いたしました。それまでは「日本書紀」にただ1カ所の記述があるだけで、幻の城柵と言われておりました淳足の柵の存在を示すものとして当時一大センセーショナルを巻き起こしまして、その城柵が養老年間まで存在していたことも明らかになりました。そのほかに当時全国で初めて言われます完型郡符木簡の出土もありまして、全国から遺跡の村として知っていただくようになりました。その後の調査によりまして奈良時代前期にこの地域一帯を治めておりました古志郡衙の関所のようなものが存在していたことがわかりまして、その後平成8年度から調査を開始いたしました下の西遺跡によりまして、この地域一帯が当時国の要衝の地として栄えていたことが次第に明らかになってきております。

鎌倉時代末期には日蓮上人の高弟、日昭上人が妙法寺を建立いたしまして、北越布教の中心となっております。

近世に入りまして、和島村の中心地を流れます島崎川、現在は郷本川でございますが、その改修後は新潟 柏崎間の河川交通の要路となりまして、物資の輸送に利用され、船着き場として中心地であります島崎地区には商船業者が当時50を数えるまでにぎわいを見せておりました。名主の長男として生まれながら、俗世を嫌って出家し、厳しい修行を重ね、諸国行脚の末に、現在の分水町国上の五合庵に居を構えて名利を捨て、地域の村人たちと交流しながら人の道を説かれました聖僧、良寛が唯一の弟子であります遍澄法師の勧めによりまして生まれ故郷の隣村でございます和島村の木村家の草庵に移り、亡くなられるまでの足かけ5年間はここの修行僧として一生を終えた中で唯一心の安まる時間を過ごされております。それは長岡市に生まれ、当時出家され、長岡の福島の間魔堂で修行されておられました貞心尼との初めての出会いが和島村でございました。2人の美しい師弟愛は、良寛が亡くなるまで続き、その間に交わされました相聞歌は良寛の没後貞心尼によって「蓮の露」として残されております。和島村にはその良寛の墓、弟、由之の墓が木村家の菩提寺、隆泉寺の境内内の木村家の墓地に建立されており、毎年6月6日に和島村良寛会が良寛敬慕者の多くの方々の中墓前法要を営んでおります。その良寛逝去の地であります和島村では、村内に多く残されている良寛遺墨のうち木村家のご親戚、大矢家に残されておりましたものを中心といたしましてその散逸を防ぎますとともに、広く顕彰することを目的に平成3年4月に良寛の里をオープンいたしまして、多くの方々から訪ねていただいております。また、

平成6年5月には同じ敷地の別エリアに菊盛記念美術館がオープンいたしましてロダン、高村光太郎など近代の具象彫刻家の代表作品を一堂に展示しております。中でも通称「乙女の像」と呼ばれておりますみちのくの中型につきましては、この美術館のために特別に鑄造していただいたものでございまして、特に一見の価値があるというふうに思っております。

江戸時代末期には、大政奉還を契機に官軍と幕府の戦いが激化いたしまして、和島村も戊辰戦争の戦場となり、大きな被害を受けております。

明治時代に入りまして、廃藩置県では和島村全域が柏崎県に属してありまして、明治6年、新潟県に編入をされております。町村制が公布された明治22年に桐島村、島崎村、小島谷村と村田村の4村が発足しまして、明治34年に桐島村と島田村の2村に統合をされております。明治44年には、和島村出身の久須美秀三郎、東馬父子が2代にわたってその私財をなげうち、越後鉄道株式会社を設立、大正2年に現在のJR越後線の前身、白山 柏崎間の鉄道が完成いたしまして、この沿線の市町村住民の皆様方の生活環境の発展に大きく寄与してまいりました。

その後、昭和30年3月31日に桐島村と島田村の合併によりまして和島村となります。同じ33年1月に、出雲崎町の高畑地区を編入して現在に至っております。

簡単でございますが、現在までの和島村の変遷、それから現況をご説明申し上げます。よろしくお願いたします。ありがとうございました。

事務局（竹見）

それから、委員の皆様方のところには和島村の資料を封筒の中に入れてお渡ししてありますので、後でござらんになってください。

続きまして、和島村と6市町村が合併した場合、建設計画にどのような形で位置や、人口、それから面積を整理していくのか、途中でありますけれども、まとめましたので、ご説明をいたします。資料の5をござらんください。こちらは建設計画の第1章、新市の概況から見た可能性の部分でございます。こちら6市町村のデータに和島村のデータを追記、追加しているような形でまとめてあります。

まず、1ページ目は長岡市までのアクセス時間とアクセス距離でございます。約35分ということです。

それから、2ページ目が人口、世帯という形の中で、長岡市の人口に約5,000人の人口を加えているというふうな形でまとめております。

それから、3ページ目が人口動態の見通しということで、人口の推移、和島村は山古志村の少し上の方にグラフとして追加されております。

続きまして、4ページ目です。こちらは気象ということで、特に真ん中の長岡地域の最大積雪深と積雪日数の中では、和島村が7市町村の中では一番少ない地域であるということがうかがえます。

それから、5ページ目が面積ということで、少し形が真ん中、上の方が抜けているような形になりますけれども、新市の面積としては557.8平方キロメートルということです。

続きまして、土地利用です。それが6ページ目です。土地の利用状況の細かいことにつきましては真

ん中と、それから下の表でまとめております。

続きまして、7ページ目が都市計画区域の面積をまとめております。新市の都市計画区域の割合を和島村を加えた形の中で整理をしております。

まだ本日第1章の途中ではありますが、次回は第1章の後半の部分も含めて提出させていただきます。

説明は以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ただいまの事務局の説明、それから早川さんからご説明いただきましたけど、この内容につきましてご質問がございましたらお願いいたします。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、特にご質問等ございませんので、次に進ませていただきます。あとは意見交換ということになりますが、何か事務局ございませんか。

事務局（竹見）

意見交換ということで、長岡市、和島村合併による将来構想実現に向けての新まちづくりについてということで、いろんなご意見をちょうだいしたいなと思います。まず、先ほど総務課長さんの方から和島村さんの概要、歴史的なものも含めてご説明をいただいたわけなんですけども、これから長岡と合併するに当たって、皆様方が考えておられる和島の将来像とか、あるいは長岡地域と連携する場合に和島の地域のどういう姿のまちとなってほしいとか、それから和島地域の役割などをご意見いただければなと思ひまして、よろしくお願ひいたします。

委員（池田 彌）

一つよろしゅうございますか。今総務課長の方から和島村の現在の現況、それからいいところの話はあったわけでございますけれども、その中でも最近できました道の駅のNPOの活躍について、今非常に我々見ておりましたもすばらしいものがあるかと思っております。その中で初めて立ち上げたNPOでございますけれども、我々議会としても推移を大事に見守り、またいろんな方面でそういうNPO活動を発展させていくべき非常に原点になっていると思うんです。そんなことをひとつまた大いにお認めいただくというようなことと同時に、他地域でも発展させていきたいなと、こんなふうにお思っております。

それから、オートキャンプ場も実は我が地域は海岸線は持っていないんですけれども、非常に景観といいですか、村の人々よりもむしろ他県からの客がかなり来客があるんです。そんなところもこれから、そう言っちゃなんすけれども、雪もかなり少ない地域でございますので、非常に我々の期待できるものを持っていますんで、ひとつそんなことも含めながら、これからいろいろ構想を早急に時間的な余裕

も余りないんでございますけれども、ひとつお酌み取りいただきたいなと、こんなふうには思っているところでもあります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

私が申し上げるのあれなんですけど、国際交流が非常に盛んであるということを伺っていますけども、ちょっともう少し具体的に何かお話しただけないでしょうか。

委員（池田 彌）

タヒチとの国際交流の件でございますけれど、これ事務方から具体的に話があればいいんですけども、ホームステイのやり方でもってやっておるわけございまして、隔年ごとに行ったり来たりするわけでございます。その中で非常に世界でも本当に最後のオアシス的なタヒチでございまして、本当におおらかな人間性の中で来ていただき、またホームステイなどでも地域的に非常によくいっておるように我々見ております。また実は私の子供もそちらの方に行った経緯もありまして、聞くところによりますと、それこそ向こうに住みたいなというくらいいいところだと、こんなふうには話していたことが、つい最近でございますけれども、あったわけでございます。国際交流などもこれからもやっぱり室にしたいなと、ぜひひとつ継続的なものを、さらにまた発展的なものを生み出したいなと、こんなふうには思っておりますが。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

私も11年前に長岡へ参りまして、そのときに非常に驚いたんですけども、長岡市の方たちもホームステイ、外国の子供たちないし外国人のホームステイを全く支障なくやられるんです。東京ですと、まずこれは無理なんですけども、非常にチームワークがよくて、気持ちよく外国の人とホームステイとか。やはり和島村が一緒になっても、そういう地域の人たちの気持ちといいますか、国際的な広がりといいますか、そういうものが一つの市の特徴になっていくんじゃないかなという気がします。すばらしいことだと思いますが、実は私、これは副委員長の大学もそうだと思いますけども、留学生が来て、非常に住みやすいんです。うちへ来ていた学生が卒業しました。それで、東京のあるところへ行って、最初のあいさつが長岡で、非常に私は人生で初めて感動的な学生生活を送ったと、非常に感謝して自分の経歴をしゃべったんですけど、そういう点で非常にこれからいい関係がますます生まれてくる気がします。

ほかにございませんか。

委員（鯉江康正）

これは、事務局に聞いた方がいいのかもしれませんが、建設計画の45ページからになるんですが、地域らしさ価値は変えないんですよ。当然だと、この四つについては、重点実現項目は、追加する可能性はありますか。それも変えない。ちょっと気になるのが、ここは和島村と長岡市の合併の会議なんですけど、いずれ寺泊という話も出てくるわけで、そうすると魅力の一つにやっぱり観光があると思うんで

す。もともと長岡というのは産業だったり、教育だったりということが地域らしさ価値で、観光というのは余り色濃く出ていないじゃないですか、前の建設計画は。それをどこに入れていくのかなというのをどういうふうに考えたらいいのかなと。観光を多分無視はできないわけですし、和島、寺泊ということを考えれば。ですから、そこをどのように入れていくのかということころをちょっと教えてほしいんですが。

事務局（竹見）

今回は地域らしさ価値というのは、例えば独創企業だから産業だけとか、それから例えば元気に満ちた米産地だから農業だけとか、そういったいわゆる行政側のそういう事業分野、行政の分野別の形では整理していないのです。先ほどご説明しましたように市民の思いとか、期待からどういう価値観を持って新市に向けてまちづくりをしていったらいいかということで、市民の価値観の話の中でまとめてきています。ですので、例えば観光ということであれば、独創的な考え方の中で企業的な動きをするケースであれば独創企業が生まれ育って、そこにも入る可能性ありますし、それから世界をつなぐ和らぎ交流都市というようなのがございますけれども、和らぎというのは人がわあっと来て、またわあっと帰るようなイメージではなくて、人と人と、いわゆる心の交流ができるような今和島さんで行われているようなタヒチとの交流とか、そういったものにもありますし、そういう逆に元気に満ちた米産地ということで、例えば農業という、お米とか、それからいろんなこちらの中でおいしい食べ物ありますけど、そういったのを使って観光にしていくということであれば元気に満ちた米産地に入るとか、そういった考え方になります。

事務局（北谷）

補足しますと、今担当が申し上げたのもそのとおりなんですけど、48ページの地域資源ですよ。例えば寺泊の海という観点からいくと。

委員長（豊口 協）

ほかに。

夢を語っていただいて結構です。

委員（池田 彌）

これは、非常に私ごとで大変恐縮なんでございますが、つき合いの中で群馬、それから埼玉、そちらさんの方との交流もスポーツ的にもかなり寺泊さんと合体した中で交流させてもらっている経緯があるわけでございます。向こうの群馬さん、埼玉の山間地の方では非常にこちらの長岡を通りまして、いわゆる海に出る、この辺の観光を年には何度も来てみたい、来てみたいと本当に心に思っておるということを、会う人、会う人がみんな言っておられるわけでございます。そんな中でぜひ大動脈もあるわけでございますので、長岡を通り、海岸に行くと。ぜひ非常に宝的、新潟県の中心の宝だと私は思います。そんなところもこれから、新潟県には雪が降る湯沢がありますし、夏はやはり海岸の方にどんどん、どんどん人間が集まる。さっき寺泊という話も出ましたけれども、新潟県の一番海水浴の多い、人を集

めるところの海岸でございますので、そんな通り道といいますが、穀倉地帯を通りながらおいしい米、うまい酒をたしなみながら帰ってもらうというような非常にいいところだなと私思っておるんですが、やはり観光的なもの、このような発展が特にPRできる、こんな地域なのかなと思って期待も生じております。そういきたいところでございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ほかにはございませんか。

二澤委員、ございませんか。

委員（二澤和夫）

この間伺った時に、非常に丘陵地が良いなと思えました。あまり高くないし、長岡にも雪国植物園がありますが、申し訳ありませんが私は行ったことがないのですが、オートキャンプ場がありますが丘陵地を利用したレクリエーション施設の整備を計画したことはありますでしょうか。

委員（佐々木貞夫）

オートキャンプ場あたり、それからさっき総務課長も説明いたしましたけれども、本山、妙法寺、その裏に村岡城址もありまして、そこに散策路があります。その辺を海岸沿いになりますけれども、つないでというふうな工法的なものはあったわけではございますけれども、実際につくってはいません。散策路も城址の周辺程度と。今後はもし可能なものであれば、そういったふうなものとキャンプ場を結んで、さらにまた別ルートでもサイクリング的な形で貸し自転車なんかも随所に置いてとか、そんな考え方も先ほどもこれありました八幡林遺跡、そこも史跡についてどのような今後の国の、指定をいただきましたもんですから、整備をする際には国の援助も当然可能なわけでありまして、その辺をどのようにしていくかなというところで現在の日にちを迎えておるところであります、そんなふうな形でお仲間にもまたこの地域を入れていただければありがたいと。そして、今話もありましたけれども、私どものところは純農村地帯で、農業立村をまず第一に提唱しております。そのようなことで、住民の気持ちはほぼお米の生産、そちらの方の施策に大体汗水流し、そしてそれに向かっていると。そんな形の中で気持ちは一つと。そして、積雪量も、ここにも資料がありましたけれども、一番今回の仲間では少ない方かなと。これからの新しい寺泊町さんの話もありますけれども、そこほどではございませんけれども、たまには雪合戦もできる雪があってもいいだろうと。そんな形で、老後とは言いませんけれども、晩年、あるいはお勤めの後、第二のところでは穏やかな住む場所はないかなというふうな話があったときに、非常に私ども、皆さんども、三島郡の方、それから長岡市さんも同じ風景をお持ちでありますけれども、私のところはおっしゃったように丘陵地帯で、ほとんどどこ行っても似たような景色であります。非常に住みやすい場所であるもんですから、その辺の役割なんかも、もししていただければ私どももありがたいなと、こんなふうにも思っておりますけれども。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

大変貴重なご意見いただきましてありがとうございました。今日いただきましたご意見は、事務局の方で整理をさせていただいて、次のステップに入っていきたいと思えます。

今日予定されておりました議題は以上でございますが、事務局、何かありますか。

事務局（高橋）

先ほど今後のスケジュールの話も少し出しましたが、次回の小委員会のスケジュールでございますが、先ほどお話ししたとおり13日ころということで現在調整しております。まだ事務の進みぐあいを見ながら正式にお諮りをさせて、ご連絡をさせていただきたいと思っておりますが、現時点では13日ころということで考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次回につきましては、今ほどもさまざまご意見が出ておりましたが、それらも含めまして和島地域の夢という部分、それから建設の施策の部分についてもある程度出せばなということで事務を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

委員（池田 彌）

13日は、時間的には今日のような大体時間的なものになる予想でしょうか。

事務局（高橋）

午後からということで、今日の4時半になるかどうかはまだ決まっておりませんが、午後からのスケジュールを一応考えております。また少し個別にご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員（池田 彌）

わかりました。実は一部事務組合の消防、斎場事務組合を13日に今日設定してきたもので、それは午前にすれば幾らも構いませんので、それは時間さえわかれば。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

今日は、貴重なご意見をありがとうございました。次回は13日ころということでよろしくお願いいたします。

（散会 午後5時30分）